

「長尾和宏の死の授業」

長尾 和宏 著

脳腫瘍で余命6カ月と宣告された米国人女性が昨年、尊厳死が認められている州に移住し、29歳で安楽死の道を選んだ。ソーシャルメディアで大きな議論を呼んだこの出来事を題材に、日本尊厳死協会副理事長の著者が日本の若者と語り合った記録である。

薬物で死期を早める「安楽死」、延命治療をしない「尊厳死」。言葉の定義や論点を整理しながら、若者の率直な意見を引き出し、死をタブー視せず、普段考えておくことの大切さを訴える。

(ブックスマン社・1296円)